

【展覧会】

第 22 回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～



① ちらし画像

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA が開館した当初から続く「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」は、今回で 22 回目を迎えます。
滋賀県内の福祉施設等と NO-MA が実行委員会を組織し、企画、展示する展覧会です。滋賀県内の障害のある作家 15 名と 3 組の作品を紹介します。日々生み出される、現在進行形の表現をご堪能ください。



実行委員会の様子



昨年度の展示風景

展覧会概要

会 期 2026(令和 8)年 1 月 24 日(土)～ 3 月 15 日(日)

会 場 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA(滋賀県近江八幡市永原町上 16)

開催時間 11:00～17:00

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

観 覧 料 一般 200 円(150 円) 高大生 150 円(100 円)※中学生以下無料

※障害のある方と付添者 1 名無料 ()内は 20 名以上の団体料金

主 催 第 22 回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA[社会福祉法人グロー(GLOW)]

後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店

助 成 障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA)

担当:赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

TEL:0748-46-8100 FAX:0748-46-8228 E-MAIL:kikaku@glow.or.jp

出展施設

あうとリーち和泉／おうみ福祉会おうみ作業所／きぬがさ福祉会おうみや／救護施設ひのたに園／
湖南ダンスワークショップ／滋賀県立近江学園／滋賀県立信楽学園／滋賀県立むれやま荘／信楽青年寮／
GIRAFFE なないろくらす／ステップアップ 21／第二出会いの家／バンバン／
放課後等デイサービス第 2 ももスマイル／レモネードキッズ草津 ※50 音順
[アドバイザー]野原健司(美術家)
[グラフィックデザイン]南和宏

みどころ

福祉施設等で生まれる作品の《いま》に触れる

障害のある人たちが過ごす日々の生活の中で生まれる造形作品の多様さを感じることができます。NO-MAが開館してから21年続くこの展覧会では、常に障害のある人たちの《いま》と向き合い続けています。

支援者が実行委員として参加し展覧会を開催

実行委員は約半年間、月に一度の委員会のなかで、アドバイザーによる展示研修を受講し、お互いに持ち寄った作品を共有、展示方法を検討し、実際の展示設営作業も行いました。作品の魅力を伝える方法を試行錯誤しつくられた展示空間となっています。日々の生活の中で生まれた表現の「いま」と、その生活に寄り添う支援者の目線を生かした展示をお楽しみください。

紹介テキストも委員が執筆

委員は作者や作品を紹介するテキストを作成し、図録や告知物などに掲載しました。作家の魅力や制作の背景を、支援者ならではの視点で伝える文章には、現場でしかわからない驚きや、作者への思いが感じられます。また、今年度の図録には、「いかに見せるか」という視点で、展示に込めた工夫を執筆していただきました。

ギャラリートーク&制作公開

会期初日(1月24日)には作者や支援者などが NO-MA に集まり、「ギャラリートーク&制作公開」を開催します。制作の背景や作品に対する思いを聞いたり、実際に制作する様子をご覧ください。

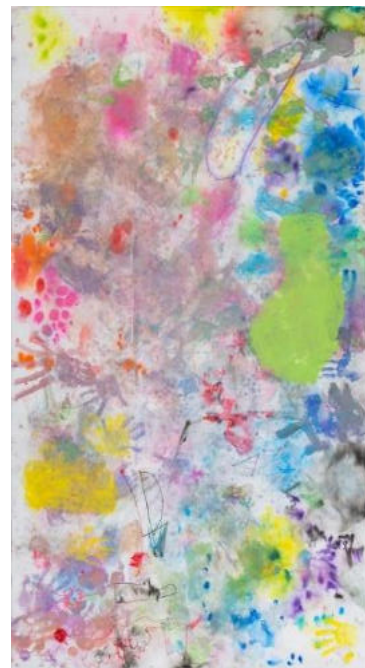
ワークショップの開催

展示されている作品の制作を体験できる、常設ワークショップを開催します。また、2 月 21 日(土)には作者の創作等を体験する「“ing”っぽい創作ワークショップ」を開催します。

出展者紹介(広報画像用)

5 歳児グループ(レモネードキッズ草津)

「うわ〜!!」障子紙が水を吸い込む様子に歓声が上がる。5歳児5名のこのグループは絵を描くことが大好きな子、思い通りに描けないと気持ちが崩れてしまう子、描くこと自体に苦手意識がある子まで様々だ。しかし、偶発的に色が混じり合う様子を見てどんどん心が解放されていく。ペンの色を滲ませたり、チョークを削って洗濯糊と混ぜた液を伸ばして描いたりしていく中で、表現がどんどんダイナミックに変化していく。手形や足形、水しぶきなど子ども達の個性が重なり合った活き活きとした様子を感じていただけるのではないだろうか。様々な画材や道具を使って何層にも描いたことで、表と裏からでは見え方が違う面白さをぜひ感じていただきたい。



② 「夏の思い出」 2025 年

廣畑(滋賀県立むれやま荘)

月に一度アートの時間が集中できる時間の一つである。中途視覚障害のため、見え方が明暗のつく程度、日々の生活に楽しみを見出せない中、創作活動には毎回参加され、作品づくりに深く集中されている。両手を存分に使い、画材の質感や温度を手で確かめながら、触感を頼りに一つ一つの作品を仕上げている。素材やテーマごとに彼の作品に向きあう思いを作品名にされ、作品ごとに異なる想いがにじむ。彼の奥様への優しさや、これまでの人とのつながりを感じさせるものもあり、彼の人となりを感じとることができる。彼の作品には、静けさの中に温かな情感が息づいている。



③ 「wife(大切なもの)」 2025 年

鮫太郎(滋賀県立信楽学園)

昨年に引き続き、鮫をこよなく愛する女子児童の作品である。昨年の展覧会がとても楽しく、自分の作った作品を多くの人に見てもらえた喜びが彼女の創作意欲を加速させたように感じる。「次も出たい」と意欲を見せてくれた。信楽学園の活動の1つ『文化芸術』では、テーマが“みんなで信楽焼のタヌキを自由に作ろう”でも彼女はサメを生み出すのだ。自由な発想で、楽しんで作品を作り上げる。『サメの一日の日常』はサメの日常を映し出した作品だがおもしろいのは、“メガネ・タオル・ナイトキャップ”を着せ替えるという発想だ。彼女の武器でもある自由な発想とサメへの愛。一途でいて、とてもユニークな作品を存分に楽しんでもらいたい。



④ 「海の皿」 2025 年

なないろくらす(GIRAFFE なないろくらす)

行灯は、障子紙に、絵の具やスポイトやスポンジ、水性ペンなどを使って描いた。「楽しかった気持ち！」「赤は怒ってる色！」「これはふわふわした気持ち！」と職員と話したり、家族が好きな色を使って描く子どももいた。また施設名のキリンの絵に色をつけたり、好きなトラックや怪獣を描いた子もいる。今回は行灯に貼り展示をした。また海の絵は、夏休みに DVD を鑑賞したあとに、描いた絵である。各々が好きに海の中を描き、緑の部分には目を描きたし、小魚の群れを表現したり、ペットボトルキャップを使って泡に見立てた。ダイナミックに青を塗る子どももいれば、細部を丁寧に塗る子など、個性を活かし協力し出来上がった一枚である。



⑤「無題」2025 年

浅尾拓音(おうみ福祉会おうみ作業所)

彼は、絵や文字を書くことが好きである。始まりは、3 歳のころ、車の絵を描いたことから始まる。最初は四角に丸 2 つの形として車とわかるものだったが、そこに窓がついて運転手が描かれだんだん形になってきた。次は家の屋根の瓦が気になり始め、家を描き始める。小学部のころに絵の上手な先生と出会い、自分でも絵が描けるようになってきた。文字も鏡文字から書き始め、逆さ文字も書くように。そこからどんな角度であっても書けるようになる。今回の作品は彼の学生時代から現在までの彼の絵の成長を感じてほしい。彼の描くひとつひとつの特徴や、何を感じながら書いていたのか、彼の心境も感じながらじっくり絵と向き合ってほしい。



⑥「無題」制作年不詳

えつこ(救護施設ひのたに園)

えつこさんは、いつも「今日ねんど行くの？」と毎月 2 回の陶芸活動を楽しみにされている。「いっぱい作っただるま』『どーなつ』の 3 種類を、粘土で汚れる手を気にしながら作られる。制作中は「おもしろいったらおもしろい！」と口癖を時折はさみ、周りのみんなを笑顔にしている。釉薬づけでは明るい色が好きで、ピンクを選ばれることが多い。完成すると、「できたよー」と伝えてくれて、2 時間の活動時間をいっぱい使い、10 個ほどの作品が出来上がる。笑うときも怒るときも、とてもパワフル。でも可愛いものが大好きなえつこさん。そんなえつこさんの性格が作品にも表れている。



⑦「だるまさん／どーなつ／皿」制作年不詳

西井洋子(バンバン)

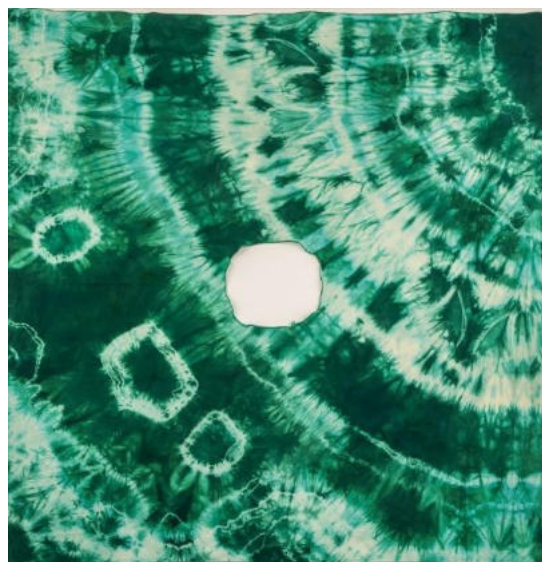
黒い画用紙に明るい色調のペンが走る。特に毎回黒の画用紙と決めているわけではなく他の色の画用紙も使うが、濃い色の画用紙に描画する際は明るい色を選んでいよう。絵のモチーフについて聞くと、そのひとつひとつについて教えてくれる。いつからか彼女は「空想の世界」と題した絵を描くようになったが、自身にとってそれがどういう世界なのか明らかにすることには、あまり興味がないようだ。過去の思い出なのかそれともテレビなどで見た記憶なのか、ご自身の絵の一部を「空想の世界」と話し、空想のキャラクターが作品の中ののびやかに同居している。彼女の絵は、白か黒か境界線をはっきりさせないような時間の流れを感じさせる。



⑧「無題」制作年不詳

湖南ダンスワークショップ

湖底にしっかりと根を張り、湖を渡る風に揺さぶられ自由に舞いながら調和する私たちの姿を、葦の群生になぞらえた舞台作品「うみのアイランド」のために、1 人 1 人が生地を折ったり丸めたり絞って染色した緑のマント。旗になったり、身につけてドレスの一部にしたり、スカーフにしたり、思い思いに着こなし動かし動かされ、踊り心を引き出してくれる。まだコロナ禍の影響が残る日々、染色とダンスの工程は、日常の生活と非日常の舞台の世界を繋ぎ、施設の中で暮らすメンバーと地域で活動するメンバーを繋いだ。一枚一枚にダンサーたちの健気な手の温もりがこもっている。鑑賞はもちろん身につけて体感してもらいたい。



⑨「うみのあしのマント（湖の葦）」2023 年

展覧会関連イベント

ギャラリートーク&制作公開

作者や実行委員によるギャラリートークを行います。

2026 年 1 月 24 日(土)13:30 ~15:30

“ing” っぼい創作ワークショップ

創作と一緒に体験しませんか。

日時:2026 年 2 月 21 日(土)13:30 ~15:00

場所:酒游館(滋賀県近江八幡市仲屋町中 6)

常設ワークショップ

ギャラリースペースで作者の創作を体験できるワークショップを実施します。

①黒い紙に絵を描いてみよう！ ②行灯を作ってみよう！

【展覧会・関連イベントなどのお問い合わせ】

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

〒523-0849 滋賀県近江八幡市永原町上 16(旧野間邸)

TEL/FAX:0748-36-5018

E-mail:no-ma@lake.ocn.ne.jp

本展における情報保障について

「さわって楽しめるものがある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、気になっていることや必要なサポートについて、合理的配慮の観点からできるかぎりの情報提供やスタッフによる対応を行います。



詳しくは QR コードから
ご確認ください

第 22 回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)広報担当宛
FAX:0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字のせはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌(紙)、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名:『 』

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

E メールアドレス:

@

(〒 -)

ご住所:

お電話番号:

FAX:

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	① ちらし画像
<input type="checkbox"/>	② レモネードキッズ草津 5 歳児グループ「夏の思い出」2025 年
<input type="checkbox"/>	③ 廣畑「wife(大切なもの)」2025 年
<input type="checkbox"/>	④ 鮫太郎「海の皿」2025 年
<input type="checkbox"/>	⑤ なないろくらす「無題」2025 年
<input type="checkbox"/>	⑥ 浅尾 拓音「無題」制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑦ えつこ「だるまさん／どーなつ／皿」制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑧ 西井 洋子「無題」制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑨ 湖南ダンスワークショップ「うみのあしのマント(湖の葦)」2023 年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当: 赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 E-MAIL: kikaku@glow.or.jp